知歌歌集

下

特別
イ4
3163
33(2)

貴
14
3163
33(2)

大阪帝国図書館

和歌類聚集下卷

戀部

月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今さらに分を恨みつゝ手枕をひてかつゝ妹がたくん
恋しく思ひたまふ事はかぎりもなきまゝ夢にとくせうおろかく
世中をなきかぼとの分なりせんほどよう人て妹を恋ふ
弟あれば桃さくらはあれども恋ひたまふ人の思ひ入れ
人をいさあるの松ばかりとくらうんてもあるを紛れ見
世をあ原をもあ仕長の間に多ばかりは隠れ松よる
おく山の松乃ともとるあれやうとるゆもう分をこうし
今さらに夢をのこれれるもあいなさこうはかるほる
はまもなく人よんをかきよりう毎ふきわおりひ物を
鶯ふるもとうとあひくは嫁のなうやはをとひこたん
紅く深くて紅の新しうの深さうとぬあひこうもうれ

万とろまたかよ毎ふと思ふ夢にてもかさと思ふ
あひ乃ちもかとてかのあはうとてかるんはたのをこうきく
あちなの今八ちハ野ひとも物こうあ物ちあるく
物とかるもふ物たこ成やあてあるこうあとあるこん
神のとおるたこ深のこうえてこうあちかるとあるひこうある
今あるふちあるもあるやくこうあふくきもるあんられ
あれなこうはあるんとあり毎中の人はいつこうせねこうも
物をの神をさこのをとはこうとふこのれをふこうとこよ
さんちよれ鶯の分のこうこんてこうあひこうこうの人のつこを
恋ひ物んあるこうせあてこうあこてこはんこの物ふ
人をは神ねかを毎ふ代のあはやこうは神こうれおつこなこうる

初言出恋

忍恋

待恋
寄月待人
橋上待人
待不来恋
時〻逢恋
希逢恋

夢逢恋
逢不會恋
遇不告恋
来不會恋
一會之後不會
食隨不會恋
不慮會恋
會後隠恋
及暁逢會恋

會不逢恋
毎晝會恋
毎夜契恋
毎夜遠約恋
臨朝遠約恋
契後隠恋
遂夜増恋
寒夜増恋
雨中増恋
依月増恋

問聞増恋
見書増恋
見書恋
散書恋
返書恋
送書待恋
失返事恋
返迎車恋
後悔恋

言出後悔惡
言切後悔惡
不語終隱惡
改名隱惡
見家思出惡
過門不入惡
觀身不言惡
立聞怨惡
時〻見惡
聞惡秘惡

秘知音惡
秘從者惡
思移媒惡
互行忌惡
語和不會惡
隱傍女惡
疑行未惡
不設被怨惡
欲盜惡
祈神惡
祈佛惡

被妨人恋
遠所恋人恋
被忌恋人恋
恋自我下人
恋東西人
終夜恋人
失媒介恋
思高恋
留信夫恋
暁恋
夜恋

後朝恋
下卧無實
馬上恋
炉邊女談
老後恋
近隣恋

隅川恋
行路恋
旅恋
旅宿恋

故郷恋
夏恋
閑居増恋
稚女恋
寄山恋
寄舟恋
寄石恋
寄金恋
寄簾恋
寄社恋

寄花恋
寄菊花恋
寄草花恋
寄草恋
寄鳥恋
寄鳳恋
寄瓜恋
寄更衣恋
寄衣恋
寄照射恋
寄催馬樂恋

面影立田の山の桜花ゆゑ[illegible]人[illegible]
文 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
月 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
文 [illegible]
[illegible]
[illegible]

寄源氏物語恋

人をこそ物をもいはず[illegible]
甫 あ[illegible]

名所の恋

月 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

はゝきてあひしるあに

文 [illegible]

ある女こはゝ[illegible]てあひしる物より[illegible]

[illegible]

あひしる[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつり香

[illegible]

久しくかよはぬ女のもとにつかはしける

[illegible]

うつり香

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつり香

紅のあくまで染めてくれなゐの[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつり香

人も踏まぬ[illegible]

旅なれぬ人をたのみて[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくもとどめてつくるとくるを

あきれくるまでうとましかりけるを

さらぬと聞きる女の許よりさはる事ありてわたりてなりて次の日人

をつかはしてとあるを事のありしかばうるさしハ必

まことたのもしかりしるし世事まことなるべく

伐おろしたる松の所の淋敷きてもさうなくこれのみ見

こうた一

なりてより成ぬるをこれのみをもとしし

人をこれふりける女の許よりすきをこひたりしうハ

はかなくこたへたる

おなじ事不よりあるをうすきかれたる

女はりもとより男のふるをつうとうたりけれ

男もとよりこれのみをこひおりふんをもとしたりこれ

こうた一

男もとよりこれのみをもとしぬるを見たりとぶ

久しくまかりかよはぬ女のもとよりこれの世をこそのうのねをこそ

とく絶ぬるをやとあるをのこ

かくまでしも事ありとも絶をもとりたるをもしてうくるを

なりしうとしうとくこの月のすりたるかたをきりけれ

こうた一　小侍従

とくまでもうるをもとこれのたれそてぬるを者をもあく

はめをもとりてこのをおりてこれをのんを

ありのはたの新もちひ　みなくこそ
さしをあくへてえらし　あるくこそ
甫　ちきとなちうの　なる女のさと
あさしらしたとんるもりけるる女に
はまあとうつをみるの八橋を物ちをに
ムうの紀貫ありける女のつまをにくあるりけるる
ヨたるのへをあてうはのあるてくをひるるもをはきつて
をちうにはりける女ようのをうもはてをいまをひに
いうよせんをひ菓ひををををにねはあるるを
いうみとはりのへをもをうををるにはは
をみるふをゆく水のたるうをてもををうをををしつるに

をはけるへをちけるる女のつのあるをあへをうけるる
はをこてをへあるる鏡をうあはをの神のひるの高をなるを
ものひてたるーはをのをうしてはるるはるるはるるる女のをへ
いうふてちはりるる家のをうをるをををををををれ
つををあひるるりけるる女のをはるりるをををてをいひるる
久へくををををををりはをを
はるつれいをの浦萩をうるをほのあるはをおりーはるる
人をうたるるくるるるるるて
はくはをひくはへをあるをとはるるるるるる
女をるるるをてへをへありををとちるるをとたてくはををるるあるこひ
しるをはををあををたすちあるをかひをくるへるのるるをつるる

かたつもりくやちよをへ

ちゝのみをすひかゝるのこゝろ人もれとゝくゝ物をゝもふものゝ哀

女のもとゝ思てかゝるゝ人ゝもやるよたのめ者ゝと物ゝたうん

しゝ事をたのみのひくゝうゝ計ゝをひとゝさうゝのたゝ一なりゝ生ゝ

ゝ生ゝゝゝゝをとりて

名のみを世ゝゝゝくゝ立ゝ名をも十ゝ十ゝといゝゝうけゝ

いひゝてゝあゝ男のなゝ名をゝいつゝゝゝゝてゝうゝゝもゝといゝ女ゝ

うはゝゝゝ

なゝ名ゝゝゝゝ

[illegible]

あくがれきてうけてやどる所のあるじを無主空舎とかや

こう白しゝ女

あつて方人長谷のいりをとくかくるあまを[illegible]

人あまとかたらねどきこゆる女のこゝろ

うゝうゝ人は風なく磯のあまを松いつれのこゝろとゝん

かゝるひとの女のいつもとも夢くかたらくれてうけるかゝみるや 秋

もゝうおれてうけるを見く

ぬれぬれる袖をもそもそ松いつまの浦のうらまを[illegible]

ふるれ文をたかもちをかりけるゝ人のこゝろとゝあれを限と定とて

文 [illegible]

せめてうゝ[illegible]人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こう白くゝ女の山里ゝあるゝ[illegible]

社をおもておもてゝ[illegible]

[illegible]

世のうゝ[illegible]

こう白しゝ

[illegible]

つまをうゝ[illegible]

[illegible]

あひみても[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水の面をさはがれてとゞまるやあらぬ人ゝ[illegible]き

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月つごもりの比大内よりさくらひとえをあひてゝ結

しるしにいつもく女をもおくり給へるに枝ぶりのをもしろく

朝の霜しろく見えたるをしらはをつゝはをとく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝぬ[illegible]

[illegible]

ひとりくらしたる[illegible]

[illegible]

[illegible]

あひしたしき[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月十日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊こつまてはなりけれ

[illegible]

うつ色し　小はた

いとあはひ[illegible]ぬ[illegible]たのまし人のしれ[illegible]

[illegible]

ひ[illegible]ぬ[illegible]

うつ色し

うつろはぬ菊[illegible]

女のうちとけ[illegible]

[illegible]

何[illegible]

下女をもつてつかはす

[illegible]

あひ[illegible]

今ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出つけてゆかけれ

いとあとてぬ[illegible]

二月廿日あまりは[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月

秋の空の植のつゆすゑのつきぬるかけ

旅

雜部

月
[illegible]

甫
[illegible]

文
[illegible]

月
[illegible]

甫
[illegible]

月
[illegible]

旅宿月
羇中雪
朝野旅客
旅行露

旅泊
旅泊霜

[illegible]

文
[illegible]

[illegible]

杉子所より入道のもとへつかはしたる

[illegible]

離別

[illegible]

[illegible]

素性入道塩竈あみ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月

ある人都のうへへのぼりけるとしにあたりてよみて侍りける

[illegible]

都よりはるかに[illegible]

[illegible]

名所のうたあまたよみたる中に

末松山　浦

[illegible]

浮島

[illegible]

岩浦

[illegible]

住吉社

[illegible]

長柄橋

[illegible]

竜門

[illegible]

小松原

法眼定雅あひて侍りし時大雪の降りしを[illegible]

のちによめる

二月

おくやまの苔の衣の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海上眺望

海邊鶴

舟

庭松

松間雪

暮林宿鳥

閑居夜雨

[illegible]

彩もとも又おもしろ[illegible]の[illegible]て六橋の[illegible]

うら屋

色[illegible]

[illegible]殿の花ゆゑ[illegible]かりけるへ[illegible]きく後[illegible]

[illegible]人[illegible]

よいひつゝけ

文

[illegible]の雲井の花を結つゝ[illegible]

うら屋

[illegible]

上達ア殿上人あまた大門の花[illegible]三位大[illegible]

[illegible]

相[illegible]

うら屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うら屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春ふかく秋の色に入ひとさかりをこしてなほ

うつ屋

あるじ　花のさかりを春ふかく秋の色をもうつらふ

やさしきをかしかりて下ちりかくれしかたちの雪の

たもとに袖をしぼりかねたる

朝戸出てまちうかれやすき人共雪のさかりに雪を踏かてうつ

うつ屋

朝戸出の雪ゆゑ時雨のうつろふ人に心なかりせは

別当入道大納言はるとの月十日はかりにまうでられし松と

花の花咲かりしてはかりの頃ゆゑ後宴しかれ

松と桜踏をやはん人花の花咲ゆゑんとかけてしかの

うつ屋

花の花ゆゑかけたる文りやとかけ川車はなとうとき紅なる

みあれ社白波ふるものりとしかうかひをはらうていふ　そかうう雪

おとふるもりはちはらうそうけ　いふ　人の雪

車

色宮よりまゐる雪のひかりをもうつしきき

ふるもりはしたて

朝雪はきえ

人の雪人雪ふるみ雪はかるるかちうすれ

とかはかはかの人とりはまてこうみと奇をおこ雪たりけるをつもの

日ふれはうるをとり

ちくはくの
二条院の中将中宮に
あやとりの
法性寺殿
の日記
人の

出羽国より人もけこそ多くあつまり春の初つかたの事なりし
こゝ歌一人よみ侍りて　　女房大弾
吾たちかりの浮世をいとはるゝ身の捨ぬ為に為ぬ
鶴ゝ岳の別当の僧都の弾人宮のうつし給よみて奉りし
八月十五夜九十之餞を記し給ひ師あるとおの法
はうみの國土為とゝ一所ゝ事九十之餞を記し給ひ師あるとおの法
ゝ侍りて物語ふとせ一つ付て多くゝ侍りしかゝ
事をあくまでもしかゝ出ぬ世を老らるゝを人ゝ多日生てゝ
面つゝ事一つ付てゝ
なりひ出てよるゝ世すゝ極楽ゝ行ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
年老ゝ人の五月十日比ゝ魚橋のあり侍ゝ陸あゝ人の弾人

侍りしとて文をつかはしつゝ手付て奉りし
橘の花のさかりなるに
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俊成入道[illegible]

[illegible]

人のもとへ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月

[illegible]

人の[illegible]

人心不[illegible]

[illegible]

別当入道大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うた曲

[illegible]

別当入道山里のおもふ所[illegible]

[illegible]

面の東なるものみおりけるうたとして

うた曲

世中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うた曲

[illegible]

藏人おりて次の日女房[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

甲斐大進為基の伴よりの故帥大納言集を取りよせたるはしも
きりしと大事あるに所労かりてかへしてかせ事しなり
[illegible]
うら風
あるかきたりたるかとみるやうもしかなをとりかをとりて
いかへりしかりひ出りれたる法三条内大臣いまこの中わかく
[illegible]
市
[illegible]
二条院の御時歌よむ人うしとみ世今はきき
きわたりたりしかりかりゆるしてかりてまたく
あくるまきたる雪のふりたるよあるに

[illegible]
[illegible]
四位の侍従の[illegible]使ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
尚歯會[illegible]
[illegible]
物名 うらにた

むかしかとうの侍ども[illegible]
讃岐のさと[illegible]の[illegible]を造門京の[illegible]
[illegible]人[illegible]

松山のたよりうらいき浦風[illegible]

しらたのとよゆるしてあるを

四位さうしなりをゆるされけるを仕イ[illegible]

[illegible]

やうこの人さの[illegible]

[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

二条院御宮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おりる所をつむ城山次の花をうるを待べなるれけり
濃後守なる加藤のをみまうけ年仕けるを二とせ三とせ
けるとかたりをれなるあまりれたるほひとみてをりける

佐やま宿おりくひをんをきけるなるる　巻を結ぶ

たれ巻を面後ふまうさをのひとりをんをたなりるけると
うへゆるされけるこれ仕度代とて年こもほされけり付世納
を入道住西ゆりやく書けるる

伊あるる鳴るはなやゆうん雲井よりみんをまりるる

うへ　信西

けうしろ代へのをるハ巻をるをを井ゆえをうへき
信西のまりれ京人をるひとをせをうれけるを八

わまひとり年をうをてかをはいをうをなるる山次の花
巻けをりをるをゆるをるけると
をけひをるをなをけあるをうをけををを

文

赤根寺に出家する婦女に代りて四季の山水を書きたる

述懐

雜のくさ〳〵中に

篇のいつも新へ出りたれば春ちるを孫やうなるまし
長きと年ちきこゝけまとあやまりなを掛と人て初めて
こゝかを山立ちるしめる天空はのしの風を結そうれき
ふる里をこゝけつもちまかきれ思ひ乱さ海をみせ初
はまくとよる所を知ちてあ月をひをもかへ人めるれ
まつりはすけの松つくれるかひをそこけ立時まきを八
中を見て梅もさつもはものをわる身の恋を結うわひめる
うなるこゝ今八とるれもち出者をんはまこいとひたるれ
はまくと見て面新まかを書八あまれいこはゝ妙ゝ初ゝん

夏はうちふるもの春雪をこけを天今初表よひはゝ
陽沼くれひあるあ井冷ふけをまうあ人を稼ちれ
年出方月はまもあて変知ひ月の世ともかを
わるるる中よいつるれ初ちあんれ初ちれ月を
う初月沼はとこ深ま無あやと思へまかこもあ思
世中を天今八かるこ月のんはこうなるこをける
よ中を知ふ井寝とつひこ初ものを初きを月を稼けん
初衛の菊これ初きれ初ふ法ちそもす深ふ新
わふる山の高初福ふれ初ちれ初ちれ初やをそん
いさこ大はまるこ中を知ふ年こせはを
ちの月の去はきその藤きあぬきをあこめるあこ中はを

文

寄水述懐

島根流れ

無常　甫

月前催無常文　[illegible]

二条帝うせたまひてはるかなるのちのあはれとよみける

あはれとは[illegible]

[illegible]

義、福門院うせたまひてのち、[illegible]

[illegible]

人をみよあはれとかなしかりけるとなげかれ

[illegible]　俊成

[illegible]

五文うせたまひて後中宮[illegible]

[illegible]

中院殿うせたまへる事をなげきて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二条院[illegible]

[illegible]

文

[illegible]

[illegible]

少將重家身まうて後おつきさうしあるてはそくとあひ
はきうよ女はかへ[illegible]
かの[illegible]ん[illegible]

うく〜

よそなうの歌くんけう[illegible]
範重の身まうて後法華はは日誦経はけう誦文字
かきうつけるとうけ

世のおもの樂まる文もかまはてかひつてあるまとあるき
よそてのくかくきくくていつる文あるきあるをんよとそれん

少將入乃書兄人年の高うおれし歌とゆそうひまとうく

ほとゝもあれかうの雪を持あつまをとゆるを長とうあ

うく〜

東の[illegible]の東[illegible]
[illegible]
[illegible]園左大臣の方うせ[illegible]
たるとあるくのとくとなれそよあふ
[illegible]中[illegible]
とゝ法の高[illegible]
いりせのかつあるけ[illegible]
かへ〜

後法大寺左大臣
[illegible]中のあのくをとみてあるえん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あひちの侍らう女こと世けうとうこてい[illegible]

山里へおくるつのはてなる[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くくこうあやいひつうけ[illegible]

[illegible]

道のほとりにをさあれこと[illegible]

の人ことひとそちて母分[illegible]

○東淀[illegible]

こやうの生涯杉海のそこへ

市

さうにくのうろこ[illegible]

岡崎の三位やとひこうつひて[illegible]

文

こと[illegible]

うの毛

よろうりいひつの[illegible]

杉[illegible]入乃の許より[illegible]

やうに筆[illegible]

不毛

[illegible]

釋教

[illegible]

如渡得船

人麿 新供のあつまり一品經供養人こせ社行りして

勸持品

化城喩品

大宗僧中道釈寿

世中をかなみてうる数あれやあふもあふ法あるもあふ

大和国石上ふる延之梓女寺ふる所のあと人麿の墓あると

いつまでかはてゝ卒塔婆をこそたてゝ柿本人麻呂とかきつけてゝ
けるとぞいふなんを出村人歌

南

[illegible]

[illegible]

天王寺にまうでゝかへるとて

九月廿九日あまりの月にてこそ天王寺にまうでゝ侍りしか伊賀入道為
業の伴にて出でたりしかばかくなん

文

天王寺に詣でゝ侍りしかの寺の西門の額に秋の月

うつる

[illegible]

[illegible]女房大納言[illegible]

[illegible]

はの事を伊賀入道にてはべりけるに

西の海にうつる月の舟[illegible]

うつる

[illegible]

又あれはてゝ入道のそとく事[illegible]

[illegible]

うつる

[illegible]

[illegible]

所々にて人々詠りける

都にて春をいとなむ人なれば

こゝ

かの岸にゆきて見るもあはれなり

さゝもちとりつゝ念仏所々にて

いつゝあまを経よみをとせを伊賀入道にて

僧正ゆらたゞもなもしく

待しまなりをもひ出るに

うたゝ二首よみてつゝけ

行やをつゝもあてゝ極楽の門もひらけ

出やまの井法の舞もちかつゝ

すゝこのほうもろ此ものを松風を行くゝ

こう歌一二の三首を一首よみかけ

参りけるもなりかゝ

女院一日月の法藏法のまてゝ

いまたにもあるんさうなくまもり

中道特大臣重家の家しうに

法ゝ花ゝ色ゝ事ゝ

事柄の世人の水に人の心をとゝまる

こう色

事柄の法花人の

あれを伊勢の歌の中納言山住の僧侶

岩ゝ

[illegible]

小行法あるとき[illegible]

[illegible]

この風

神祇

[illegible]

天の下のけうとやの榊葉をみるさけふるさと初夫[illegible]

[illegible]

上野の国[illegible]

伊勢れもあんなうたの[illegible]

神風や朝日の[illegible]

[illegible]

三悔のやうなる

今はなる三悔のもとの[illegible]

社頭霜

さ紅葉して[illegible]

社頭雪

三熊野[illegible]

けうとの[illegible]

[illegible]

けうとの[illegible]

伊豆[illegible]

建暦元年七月法水

祝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

禁中花

遐年屬君

寄神祝

慶賀

祝兩人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄松祝

月 [illegible]

文 [illegible]

月 [illegible]

寄竹祝

竹久敷

甫 [illegible]

松不知年

鶴齢千年

[illegible]

寄人のうちにめきれく對松年齢

文 春の日は閑なるこの面の松のちとせ[illegible]

松屋宇白字法ゝく河水久隆ゝ[illegible]

甫 [illegible]

日吉祝宜祝成仲七十賀し[illegible]

七十ゝ[illegible]

人の雲居の雲ゆく業の晴を[illegible]

[illegible]

女のようみてうきねあひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のゝ[illegible]百日[illegible]

約束を契りしかやうにうけく社たちまちとせの百日あり[illegible]
いまこのたちまち中将殿の北姫うまれまして年をうつしひさしくあけ
ぬるの春へ

うつ屏風

[illegible]門は年毎の松のおひかえまさりぬる分まさく今世を経まく
思ひやれ位の山は枝ちらさうえゆく〳〵たる松のたち〳〵紀を
[illegible]家の人の某人とく弱りてつきぬるまでうつしひよ
おひの浦まの松を風のおとこ寄るたすく〳〵かりたる
旧位〳〵て後年をへく従上〳〵たりたる事の況人のうつしひたれを
山陰ひ〳〵ら年をうる桂業のうつしを[illegible]
隆信朝臣旧位〳〵て位たるうつしひよ年〳〵たる

宗は初〳〵海のうつし衣ひとあくるに井のうつしをうつり
位山むすわく社つる谷水もおのまうせとけうたしし赤
うつ屏風〳〵 隆信朝臣
いつかと色まうもまうの望のうつしむ宗社うつく
位山素まちたるうつしたる谷あれとうたくみてもうれん
二条院の御時うちうつ合うくうとて殿上ゆうさうけうつう
ちひさうひうつく帝家の春うつし
和歌の浦うつ〳〵て位あたつの雲井うつの月うつ嫁き
うつ〳〵〳〵
うつうつのわ社うつ[illegible]
二条院位うたつ〳〵うつ時殿上て位たつ位うて位条院の

佐野殿屋上のゆりゆるされたる人の詩く

立ゆるせ弁のくちばしとうはきそのとつはさん

日位して作りたる殿舎家のそとく

むさし山めくらせの衣きゝ先の身すむそのゆうべたれ

正下の加階ゆく作りし時たる拾以後伝をとりようろこひと

佐うをたるとく

文

わかの浦とたの殿あるあ波の平とをさる分中も嶋と宮

こうを面〜

いろくとの殿たるしをゆしとやりひとくねとの丹浦法

加階の後ゆるれく屋上つこうをたりたをゆうてお納を資階

う許より上ゆるこひ書をたとて

佐山の殿とかはてちるの紀愛のとまくゆるむをれとは

系面〜

菊さひちふくの殿るを作やとやぶもはとをいて為人

われ〜とろこひの殿中文廿大盤所よりとて

佐やとを高くなるねと月殿とやりて弁の若嬢〜き

系面〜

のほるふ〜佐の山を愛のとをとり廿高きたあるを男子

殿上のまを女房大浦を弁とをるとをとをとひをとく

ようたをさくゆふをとをるとく嬢〜ををくみあく殿やをれ殿衣

系面〜

たりとをたをたをかたれ嬢〜ををとをつむ神の嬢〜人

[illegible]

三位大納言清補朝臣の所よりの

いそのかたかとせたく思ふんをあるこの所にたるのそこ

うた

ちりはてる桜の井をかれて[illegible]の点の所にまくりよんを

二代の西門に暴風して仏りし時三位大納言清補朝臣の許より

はたらかしたる

白河の桜の井のうつまをてんひとり咲てうつはとうけあん

うた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本陽[illegible]月[illegible]

うた

本かたにあるかたもあるよりまたくはしくしるしん

右の兵衛宗おの[illegible]

[illegible]月[illegible]

系図

[illegible]

異本の時あるまとよると悦のうたをもつけたるを大納言実定

おくくしひつかたかたまれしよ

うた

[illegible]

[illegible]

祝おきのついてくもりつゝおりひめ[illegible]

水鳥て月よの月[illegible]

うつ面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京家若狭より往覧[illegible]

[illegible]

山階寺[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大上天皇清書下部[illegible]

[illegible]

[illegible]

大嘗會はしのうたに

[illegible]

大嘗會悠紀御屏風

[illegible]

歌を言葉を飾るなり言葉は花なり言葉は綾なり
その綾いとうかはあるべきいふ人の人よりはこひ恋ひて
事あれば言葉あるべきを拝しあまりたる言葉を尊ぶ
たる姿あり人の親なる人をこそ法師にしたる
よもあれ公はせのさとりを言葉にはあらざる
此撰びの歌ほくかうこそあるべきもの
深源とうみ人の雪鹿の母はうへ出るくれ
ゆうとうもれ母はおとれ奇集をはあ代のうひまる
母之船垣の人は新集れとれ母をとりて生てまつる
野とものちうをあつこをたてたるくをのこつとうとはゆる

と今はそうひきあひもうくてもはけるものはうを
ちうはあうらうさてすはうるみのひもそれるあまりわうこ
友ともいひうはさもうもうさるく殘の歌をおうるあ
ようとさもひれ物をいひはなまをもうこれ
ともみきうとのこあいてうはうるれもはけるうさうもはの
あるとくうはたりていあるくをの男人をいまりけるとこの世はうた
ようみ人きうるのれあをさるてしてきうもうりをはあ
みうもくれもあるうりなう事程はけうこひはされ人こうはすべき
にあるくはきいあるくをあはは人もうを初学ひはけうあのうこひ
みうくんあう繁あきうもはかれうあのうをうもはんやを
よはは川の道あをうきはにもうはあてうをすあみてうをを

賀茂古図ふるこひ古歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌文用例　二冊

消息文掃　一冊

万葉類葉抄　二冊

和歌彩色作集　二冊

文化十四年丁丑孟春発行

大阪書林

鳥飼市右衛門
澁川清右衛門
杉岡嘉助
葛城長兵衛
前川嘉七